

単元でつきたい力

（教科等でつきたい力）

- ・対象や事象を深く見つけ、感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界を基に主題を生み出す。
- ・単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、構成を工夫し、豊かに表現する。
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と想像的な工夫について考える。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

- ・自分の考えを広げたり深めたりすることに読書を生かす。
- ・本を読んで感じたこと、考えたこと、心に浮かんだイメージなどを表現する。

本単元で育む主な情報活用能力

F-STEP4

該当番号の詳細内容は「大阪府情報活用能力ステップシート」から確認できます。



単元における学習の展開（全13時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

| | |
|--------------|--|
| 第1次 (1時間) | <p>○鑑賞・構図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作する課題・条件を確認する。（国語の授業で書いた読書推せん文をもとに、感想画を描くこと、感想画の中で表現する主役を決め、構図を意識して描くこと、全面を使用し表現すること） ・構図の種類や構図が感情にもたらす効果を理解する。 |
| 第2次 (2時間) | <p>○アイデアスケッチ（☆）（本時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書推せん文で選んだシーンをもとに主役を強調させる構図を考える。 ・人物デッサンの本を使用して、登場人物の動きを描く。 <p>○アイデアスケッチを基に下絵を描く</p> |
| 第3次 (9時間) | <p>○制作（着彩）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチをもとに制作をすすめる。 ・画面の中での遠近感を意識し、主役が強調されるように着彩方法を工夫する。 |
| 第4次 (1時間) | <p>○鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明しあう。 ・作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。 |

本時のねらい

- ・主役が強調されるように画面全体の遠近感を意識しながら作品を制作する。

本時の展開

| 学習の流れ | 主な学習活動と内容 | 学校図書館活用のポイント及び指導上の留意点 |
|-------------|---|---|
| 導入 (5分) | <p>1. 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の作業内容等を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・制作の準備を行う。 | |
| 展開 (40分) | <p>2. 制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだシーンの主役が強調できるように画材の選択や扱い方など、表現方法を工夫し、構図を考えて描く。 ・人物デッサンの本を参考にして、登場人物の動きをイメージしながら描く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・読書推せん文で選んだ本を読み返しながから、情景描写や登場人物等の描写を確認し、描きすすめる。 ・登場人物を描く際に、人物描写の上達のコツ、人物のデッサンの基本などの本を活用する。 |
| まとめ (5分) | <p>3. 片付け</p> <p>4. 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の制作を振り返り、次回の作業の見通しをたてる。 | |

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

国語の授業で今まで読んだ本の中からおすすめしたい本を一冊選び、読書推せん文を書き、それを基に読書感想画を描いた。読書推せん文で注目した情景描写の中から主役となるものを選び、それを強調できるように表現を工夫するように指導した。絵を描くときも本を傍らに置いて、本を読み返しながから取り組むことで、表現したいイメージを膨らませ、言葉ではなく絵で表現することができた。登場人物を描く際は、人物デッサンの本を参考にし、描くときのコツを本から学ぶことができた。

授業で使った本の例

- 鯉登 潤 『人物デッサンの基本』 ナツメ社
- 岩崎 宏 『人物の描き方』 エムディエヌコーポレーション
- 柴崎 博子 『水彩画「人物描写」上達のコツ』 メイツユニバーサルコンテンツ 他

物語の描写をもとに着彩している様子

